

中国大都市部における家族モデルと若年層女性のライフコース選択の関連性

○劉 宇婷 (同志社大学大学院 社会学研究科)

本研究の目的は、中国大都市部における家族モデルと若年層女性のライフコース選択の間に関連性を検討することである。その両者の関連性を明らかにするため、3つの研究に分けた。研究1：中国大都市部における家族モデルはどのような特徴があるかについて検討すること。研究2：現代中国大都市部在住の若年層女性はどのようなライフコース選択をするかについても検討を行うこと。研究3：研究1と2をふまえて、具体的な関連性を見出すこと。

以上の研究目的に合わせて、以下のような調査と分析を行った。まずは、中国福建省廈門市で4名の若年層女性に対しインタビュー調査を行った。インタビュー調査の結果と先行研究に基づいて、家族モデルを「前近代家族」「近代家族」「脱近代家族」に分けて世帯規模や性別役割分業意や老親扶養意識などの17の下位概念に基づいて、調査項目の作成を行った。ライフコース選択については学業・就業、結婚、出産・養子、老親扶養という4つのブロックに分けて調査項目を作成した。そして、調査は深圳中為慧数信息咨询有限公司に委託し、調査会社が保有するネットモニターからランダムに抽出し、中国における19の大都市で質問紙がウェブで配布された。調査対象者は20～34歳の女性である。調査期間は2022年12月9～11日である。有効回答数は985件であり、回収率は31.0%であった。

分析方法としては、まず、家族モデルを構築するために、全77項目について因子分析を行った結果17個の因子が抽出された。各因子の負荷量の高い項目をもとに、家族モデルの理論的な想定を考慮しながら、各因子に名前をつけた。次に、ライフコース選択「学業・就業」「結婚」「出産・養子」「老親扶養」をブロックごとに1つの集計表でまとめたうえで、どのような傾向があるかを検討した。最後に、因子分析によって抽出された17因子得点を対象にケースのクラスター分析を行った結果、設計通りに「前近代家族」「近代家族」「脱近代家族」の3つのクラスターが分類された。そして、この3つの分類を用いてライフコース選択項目とクロス集計分析により分析を行った。

主な成果としては、現時点で約3割弱を占める脱近代家族モデルでは、学業・就業について現在求職中、将来の結婚意思はない・わからない、結婚後の就労継続も強く、子を持つつもりがない・結婚しなくても持ちたい、老親扶養では社会介護サービスを積極的に利用する、など個人化・自己中心・家族に関する低い規範意識・家庭内労働の市場化志向・家族成員平等志向・事実婚志向などの特徴を持つことが確認された。中国社会（特に大都市部）では「圧縮された脱近代化」が急速に進展していることが確認された。